



原点に立ち返って・・・

社会福祉法人ふじの園

理事長 中西 秀吉

一関藤の園の園舎が昨年六月に竣工し、新年を新しい園舎で迎えることができ、発電による売電については、アセス検討が終了し本申請を提出したところであり、来月には稼働する見通しとなつております。冬場の燃料費の高騰なども懸念されておりますが、効率の良い運用を模索しており改善できるものと思っております。

落成祝賀会では、多くの恩人の皆様に直接お会いすることができ、皆様の温かいお心に触れ感動したことを昨日のこのように思い出されます。

さて、新園舎での生活が始まって半年が過ぎました。新しい体制の中で当初は戸惑いもありましたが、徐々に新しい生活に馴染み、子ども達の表情にも変化が見られるという話も聞いております。一関藤の園が目標に掲げる「安全感・安心感・安定感のある施設の創造」に一步近づけたの



森に佇む園舎とマリア院

児童養護施設 一関藤の園
〒021-0061

一関市山目字館 2-5
Tel 0191-23-1544
Fax 0191-23-1545

ichi.fujinosono@mirror.ocn.ne.jp

発行責任者
マウエル・クリスタ

二〇一四年を迎えて

児童養護施設 一関藤の園
園長 マウエル・クリスタ

新年あけましておめでとうございます

えながら施設の特色をより鮮明に打ち出していきたいと考えております。

二〇一四年を子どもたちと職員全員が元気に迎えることができましたことを皆様に感謝申し上げます。

社会福祉法人ふじの園が青森市の社会福祉法人藤聖母園から分離独立して今年でちょうど十年になります。創立の原点に立ち返り、これからの十年、二十年に向かってしっかりと歩み続けていきたいと思っております。今後ともご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

二〇一三年は藤の園にとって記念すべき年であり、感謝すべき年でもありました。六月に新園舎の竣工、落成式、そして七月上旬からは、新園舎への引越しいろい大きな行事がすべて行われ、そして、沢山の方々温かいご支援のお蔭で新園舎でクリスマスをお祝いすることができました。本当にありがとうございます。

新園舎での生活になり半年が過ぎました。子どもたちにとっても職員にとっても環境の変化に伴い、落ち着いた時期や混乱していた時もありましたが、少しずつ生活にも慣れてきたように思います。



昭和五四年、旧園舎の竣工時に恩人から寄贈された聖ヨゼフ像。旧園舎の遺物で唯一、新園舎に残すことができました。

一年を通して沢山の頂き物があります。私たちは、食べ物をお届けしてくださる方々の気持ちに想いを馳せ、感謝しながら日々を過ごしております。高校野球を三年間続けた卒業生が、「給食棟の先生が毎朝作ってくれたおにぎりのお蔭で野球を続けることができた」と言っています。食事は身体を作るだけでなく、心を作る大切な栄養になっています。

南梅山

今年のお正月も卒業生が帰ってきました。園長先生を交えて少し談笑する機会がありました。仕事のこと、人生活ができるよう養育の質の向上にも力を入れて、まだ若いですが、よく考えていて頑張っているな」と感じしました。話しの中

二〇一一の大震災から、在園していた時の食事の間もなく三年になると話題になりました。「さばの理由で進まない中で、藤の煮物は美味しかった」等々懐園にとっても大変な三年間でしたが、苦しみを味わいながらどこか希望の光を見出すことができました。そして、一歩進むことができました。

皆様にとっても今年一だと思っていたことが実は当たり前でなかった」と。一年を通して沢山の頂き物があります。私たちは、食べ物をお届けしてくださる方々の気持ちに想いを馳せ、感謝しながら日々を過ごしております。高校野球を三年間続けた卒業生が、「給食棟の先生が毎朝作ってくれたおにぎりのお蔭で野球を続けることができた」と言っています。

『祖母の気持ちで・・・』

要望苦情解決 第三者委員 狩原 光子

「ねえ、ごんぎつね持ってきた？」数冊絵本を入れた私の袋をのぞき込みながら言うY君は「ごんぎつね」のお話が好きだ。幼児部の子ども達には難しいだろうと思いつつ読んであげたのだったが、Y君は引き込まれてしまったようだ。「ごんぎつね、死んじゃったの?」「そう、かわいそうね」「いたずらをやめて良いことをしたのね・・・」と考え込むように下を向く。

この頃のY君は本を読む時は私の膝の上に席をとる。いかにも当然という顔で。幼児部ではお兄さんの存在なのである。K君は虫が好きなのだろうか、図鑑を見ながら生き生きと虫の絵を描く。とても集中している。ちょっぴり飽きると「かりはらさん、てつだって」と叫ぶ。テレビに出てくる怪獣をやっつけるヒーローも好きらしい。ベルトを締めてヒーローになりきっている。時々はその名を覚えられない私にイラつく表情も見せることがある。

「おばあさん」「おばあちゃん」「ばあば」今、私は8人の孫たちから3つの呼ばれ方をされている。25歳になった最年長の孫は「おばあさん」、末娘の二児、1歳半と5歳の孫は「ばあば」その他はみんな「おばあちゃん」。

私の祖母は（私はオバサと呼んでいた）90度腰が曲がった小柄な人だった。私はいまだに祖母の肌のぬくもりを忘れられない。祖母は私を教育しようとはしなかったし、しつてたりもしなかった。ただただ肌で愛してくれた。自分が祖母になった今、疾うに逝った祖母からその役割を教えられたような気がしている。

時折、お邪魔している「藤の園」の幼児部で、子ども達と一緒に本を読んだり絵を描いたりして遊ばせてもら

子どもたちは本園にある6つのユニットと地域小規模児童養護施設「マリアホーム」で生活しています。7つのホームにはそれぞれ大天使や聖人の名前がついています。これから各ホームのようすを順次ご紹介していきます

ようこそ ガブリエルホームへ



新しい園舎になって早6か月。我がガブリエルホームは毎日慌ただしい日々を送っています。ガブリエルホームは下は3歳のやんちゃ盛りから上は中学3年のかわいいお姉さんまで8人のホームです。朝は〇〇テレビの占いに一喜一憂するところから始まりみんな元気に登校、登園。小さい3歳のぼくちゃんはプレイルームでたくさん遊びます。その間に職員はホーム内のお掃除！休みの日にはみんなも手伝ってくれます。頼もしいですね。学校から帰ってきたらおやつを食べて宿題タイム。盛り沢山の宿題に頭を抱えることもしばしばですが頑張って終わらせます。夕食は給食棟の先生も作ってくれますが子どもたちもお手伝いをしてくれます。幼児さんでも上手にできますよ！夕食の後はテレビタイム。チャンネル争いをするのもなく！？仲良く見えています。そして、それぞれお布団へ…。と、このような一日を過ごしています。小さい子がかわいい笑顔で癒してくれたり、大きい子がお世話をしてくれたり、それぞれお互いに助け合いながら暮らすガブリエルホーム。さて、今日はどんなドタバタが起きるかな…？



引越し初日「これからよろしくね」



子どもたちが作ったごはん



お誕生会♥ 手作りケーキでお祝いしまし



よ〜し、大きいイモ見つけるぞ!
(ふじのそのあおぞら農場にて)



見て見て!大きいイモ、とったよ



お菓子をくれないとイタスラしちゃうぞ!!



枕元に置いて寝よ〜



☆サンタさん!プレゼント
ありがとう☆(サンタ・ニコラオ)



サンタ姿にドレスアップ!!
(クリスマス会)



お兄ちゃん一緒に走ってくれて
ありがとう(藤の園運動会)

フォトアルバム



ハンドベル発表大成功♪
(老人ホームにて)



僕はくっつき虫



雪降ったよ-----!!



絶対手を離さないでよ!!!!
(ホーム行事)

ゴールをめざして よーいドン!

10月12日、2年ぶりの藤の園大運動会が行われました。たくさんのご声援、ありがとうございました。

新園舎への引越しが終わり再び子ども達グラウンドで遊べるようになりました。“一生懸命頑張ります!”と幼児さんの選手宣誓で開会した運動会は途中で雨が降ってきましたが久しぶりの運動会に子ども達は大喜びでした。

当日は、盛岡白百合学園の生徒さんもボランティアとして駆けつけて下さりました。お忙しい中、応援においで下さったみなさん、ありがとうございました。



サンタさんがいっぱい!

12月5日、一関地区遊技場組合のみなさんが来園され、たくさんのクリスマスプレゼントを頂きました。遊技場組合のサンタさん、ありがとう!

サンタさんをお迎えする歌を歌っていると、サンタさんがやってきて「みなさ〜ん 良い子にしていましたか!約束どおり今年もプレゼントを持ってやってきました!」と子どもたち一人ひとりにクリスマスプレゼントを渡して頂きました。今年は本物のサンタさん?がやってきて、子どもたちもドギマギしながらプレゼントをもらっていました。サンタさん、良い子にしてるからまた来てね!



水沢競馬場への招待♪

12月23日、岩手競馬の騎手部会のみなさんから水沢競馬場へのご招待がありました。

セレモニーの後、乗馬体験や厩舎の見学がありました。乗馬体験では、ほとんどの子が乗馬することができました。厩舎の見学では、寒い中一生懸命に馬のお世話をしている様子も見学することができました。そして、実際のレースを見ることができ

子どもたちも興奮気味に応援していました。たくさんプレゼントと温かいおもてなし、本当にありがとうございました。



クリスマス会でじぇじぇじぇ〜

12月25日、地域交流ホールで3年ぶりのクリスマス会がありました。

当日は苦情解決事業の第三者委員である小山さんと狩原さんにも参加して頂きました。小山さんのマジックショーでは子どもたちも釘づけとなり「じぇじぇじぇ〜」の連発で会場を盛り上げて頂きました。また、読み聞かせの得意な狩原さんからは

ステキなお話を聞かせて頂きました。みんな揃ってのクリスマス会、とても楽しく過ごすことができました。



御礼

今年度四月一日から平成二六年一月十五日までに頂いた寄付金は一七六件、寄付物品は二七九件でした。おひとりおひとりの、温かいお気持ちに心より感謝申し上げます。震災直後の平成二三年五月から毎月途切れることなく決まった金額のご寄附を送ってくださる方がいらつしやいます。その方のお名前だけは分かるのですが、残念ながらご連絡先がわからず御礼を申し上げることもできないでおります。いつたどのような御縁があつて私達の施設を知ったのか全く分かりませんが、きっと子どもたちのことをいつも心に留めて想ってくださいているのだと思います。地域の方々から日本各地、外国の方々からみなさんのご支援を頂いております。それは、お金だけではなくご自分の畑でとれた野菜やお米、職員だけではなかなか手が行き届かない施設内の清掃、裁縫、音楽演奏、その他様々な形で私達を支えてくださっています。この冬、新園舎での初めてのクリスマス

編集後記

新たな一年がスタートしました。高校三年生は、卒園に向け、職場実習や運転免許を取るために頑張っています。不安もあると思いますが、力強く羽ばたいていって欲しいと願っています。

今年一年、色々な出来事があると思いますが、元気な子ども達の様子をお伝えしていきたいと思っています。(広報委員会一同)

マスを迎えました。その際も子どもたちのためにたくさんのお支援をいただきました。皆様のおひとりおひとりの気持ちももった新園舎で子どもたちと職員がなごやかに楽しくクリスマス会を過ごすことができました。ありがとうございました。(佐藤記)

新園舎(南側から)

